

進捗報告書（実行団体）

事業名: 親子を支援につなぐ ひとり親家庭の食の支援事業
資金分配団体: 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名: 特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド
実施時期: 2020年11月～2021年10月
事業対象地域: 山形県
事業対象者: ひとり親家庭の親子.東日本大震災福島自主避難親子

Version 1.2

日付: 2021年4月10日

I. 事業概要

事業概要
ひとり親家庭、東日本大震災後の避難家庭など課題を抱える親子に食事を提供する他、対象ごとに定期的なイベントや行事を開催する。これらの親子の状況を把握し、必要に応じた他の活動につなぐ（ボランティアの家庭訪問支援、子どもの一時預かり、母親の再就職支援、子どもの遊びや活動支援など当団体の活動につなぐ）他機関との連携体制を形成し社会資源につなぐため、地域住民との交流イベントを開催し親子を地域につなぐ。これらにより、親子の孤立を防ぎ児童虐待を予防する。

II. 進捗報告の概要

総括
計画では月80食程度としていた利用食数が、月平均38.4食にとどまっている。コロナ禍のなか、冬期間の大雪のため移動困難な状況と緊急事態宣言による利用者数の減少やイベントの参加者数の制限が影響している。今後夕時テイクアウトを週2回、1回の提供数を15食まで可能にし、利用食数を月120食まで引き上げ、年間1040食提供を達成したい。またコロナ感染拡大予防対応で地域支援者、住民、学生ボランティアとの連携がとれない状況の対策として、自団体の他事業所(子育て支援、避難者支援、就労支援事業)の講座やイベントとコラボし、一緒に関わられる食の支援を企画し巻き込んでいきたい。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
孤立しがちな乳幼児家庭、ひとり親家庭、避難家庭等のべ300世帯の親子に食事の提供が行なわれる。支援者や地域住民との交流機会が月1回行なわれ、親子が支援につながり、相談先が複数ある状態になっている。	5ヶ月間でのべ83世帯の利用があった。食事提供数は192食、全体目標の18.5%にとどまっているが、夕時テイクアウトを3月より週2回の提供にし利用数が前月の約4倍と増加している。このまま継続していきたい。 新年度にあたり再度、行政へ活動概要の説明と情報提供を行い広く協力を求めていく。 交流会は月1回の予定をしていたが日曜ランチ会、シンシンの会と月2回の実施ができています。登録者からの相談を2件受け、他事業の一時預かりや仕事の相談事業につなぐことができました。 避難者支援では東日本大震災から10年、福島へ戻る方と山形に残る親子3組が集まって食事をし別れを惜しむ会がもたれた。少なくはなっているがまだまだふるさとに戻れない親子に支援を続けたい。

活動	進捗状況	概要
食の支援 情報交換会 遊びの提供	ほぼ計画通り	シンシンの会5回開催39食 日曜ランチ会4回開催6食 平日ランチ（随時/避難者支援親睦会含む）14食 夕時テイクアウト（11月～2月週1回 3月～週2回）133食 相談からの個別支援 2件 ・ランチ100円提供を行なうとともに親子の生活の現状を把握する。 ・利用者に特に子どもに対する虐待の実体は見られないが配慮が必要な親子が2組いる。 ・ランチ会を楽しみに親子の予定を入れているなど、食の支援を受けることで心の安定が生まれたとの声があった。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述	
<p>ひとり親親子の支援活動を安定的に実施、親子が集い交流する居場所となり継続する。子育てランドあ〜べとの活動との相乗効果で育児情報の提供、離乳食支援、食育活動を通じ親同士の交流が深まり助け合うピアサポート機能の強化。がんばっている親同士の縦と横の関係が生まれ助け合う人間関係が育成される。Pont tree caféがひとり親家庭や地域に認知され、子育て家庭と地域住民が交流する機会を定例化、継続的に行なわれることだったが当初予定していた地域住民や学生ボランティアとの交流する機会を得られなかった。コロナ禍のなか今後も状況次第では困難であると思われる。自団体の事業所との連携をはかり事業を遂行していきたい。</p>	

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥1,639,225	¥2,287,775	¥3,927,000	¥1,197,493	30%
	管理的経費	¥289,275	¥403,725	¥693,000	¥235,541	34%
合計		¥1,928,500	¥2,691,500	¥4,620,000	¥1,433,034	31%
補足説明		<p>・3月の未払い分が入っていないため。コロナ感染防止対策、緊急事態宣言等によるボランティアの活動が行われず予算の執行率に影響している。</p> <p>・開催当初、スタッフが慣れない状況のなか見通しが立たず提供数を10食程度としていた夕時テイクアウトは提供回数を倍にし1回の提供数も15食程度と増やしている。</p>				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>緊急事態宣言の発令で交流会シンシンの会は会場面積を考慮し参加者を4〜5組に限定、日曜ランチ会はDMで4組程度の予約制で行なうことにした（今月までフリー来店）。予約時間をずらすことで密をさけ感染予防を行なった。地域交流が困難ななか、あ〜べの広場を遊び場として提供し小学生親子と幼児親子の交流を図ることができた。</p> <p>チラシは市の家庭支援課、カフェ近隣施設、放課後児童クラブ、保育所に設置。食事提供数を月80〜90食程度を計画していたが、冬期間の近年まれにみる大雪と山形県と山形市のコロナ緊急事態宣言等で、登録、利用者数が伸び悩んだ。問い合わせから登録まで至らない親子が3組、電話もつながらず細やかな対応ができず残念であった。利用者との意見交換で「シングルにとって身近でうれしい支援、周知が広まれば利用は増える。シングル親子応援をもっと強く打ちだし、WEB、雑誌で拡大してもよいのでは」の声があった。シングルの親子がキャッチしやすい情報発信を実施したい。新チラシ作成配布、ホームページ更新を行う。</p>

VII. その他

自由記述
特になし

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	団体ホームページ 山形新聞避難者支援3.11東日本大震災から10年 災害の教訓と対策
広報制作物等	有	チラシ ひとり親親子支援・避難者支援 300部 シンシンの会案内 日曜ランチ会DM 32部
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置、外部に窓口を設置、JANPIAの窓口を利用。 窓口について雇用条件通知書で担当者のメールアドレスを知らせている。